

NHK
Eテレ

NHK

高校講座





東日本大震災で被災した高校生のみなさんへお知らせ



縄文から弥生へ

～稲作の広がりと金属器～

高校の勉強を経済的負担なく続けることができます
NHK学園高校の通信教育を利用して学習します
高校新入予定だった生徒 在籍中の生徒 ともに受講可能です

葛飾区郷土と天文の博物館学芸員

谷口 榮

ききて

桐島 里菜

高校の勉強を経済的負担なく続けることができます

NHK学園高校の通信教育を利用して学習します

高校新入予定だった生徒 在籍中の生徒 ともに受講可能です





谷口 榮

縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～

① 石器から金属器へ

縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～

① 石器から金属器へ

② ムラと富

縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～

① 石器から金属器へ

② ムラと富

③ こうほん 広汎な交流と地域性
弥生文化、続縄文文化、南島の貝塚文化



三内丸山遺跡(青森県)





NHK
Eテレ



クルミ

(青森県教育庁文化財保護課 蔵)



NHK
ETV

NHK
E-TV

寒冷化











佐賀県唐津市



菜畑遺跡

(撮影協力 唐津市教育委員会)









NHK
Eテレ

垂柳遺跡の水田跡(青森県)



弥生人の足跡



炭化米

弥生時代の主な遺跡・水田跡

垂柳遺跡

菜畑遺跡





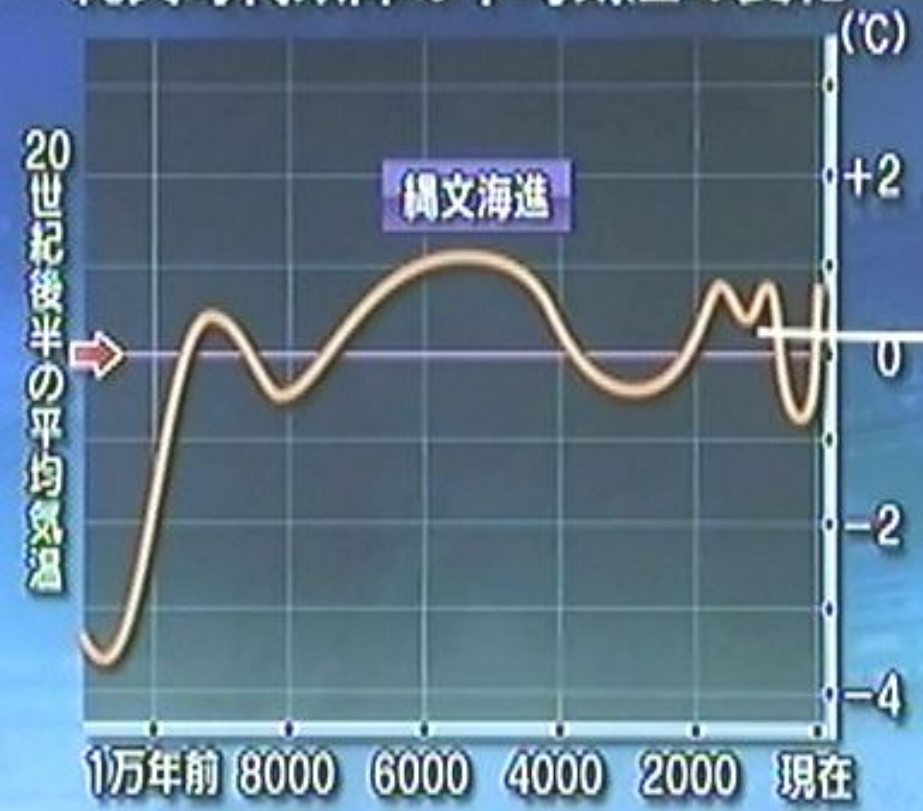
弥生時代の主な遺跡・水田跡

垂柳遺跡

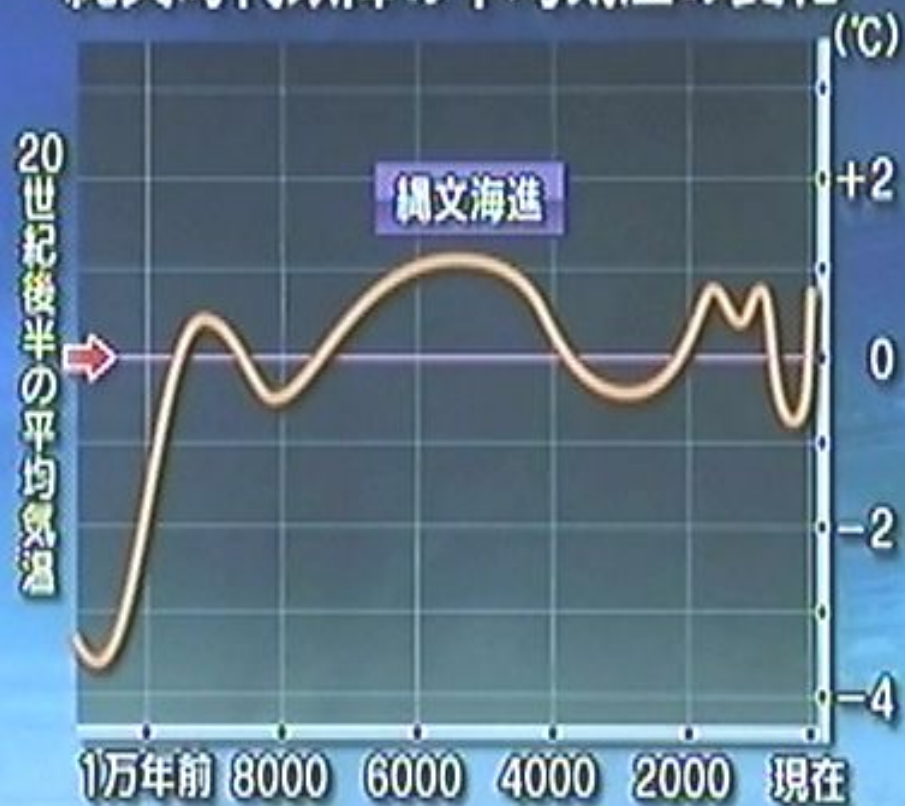
菜畑遺跡



縄文時代以降の平均気温の変化



縄文時代以降の平均気温の変化



水田稲作普及の背景

寒冷化による海岸線の後退

- 豊かな「場」の消滅による
縄文的生活の行きづまり
- 一方で、開墾可能な低湿地が拡大

縄文時代の管理栽培

- 水田稲作技術を受け入れる下地

水田稲作普及の背景

寒冷化による海岸線の後退

- 豊かな「場」の消滅による
縄文的生活の行きづまり
- 一方で、開墾可能な低湿地が拡大

縄文時代の管理栽培

- 水田稲作技術を受け入れる下地

NHK
Eテレ



木製農具

(福岡・板付遺跡 福岡市教育委員会 蔵)



石包丁(佐賀・菜畑遺跡)



鉄製工具(鳥取・青谷上寺地遺跡)



銅劍



銅矛^{ほこ}



銅戈^か



銅劍



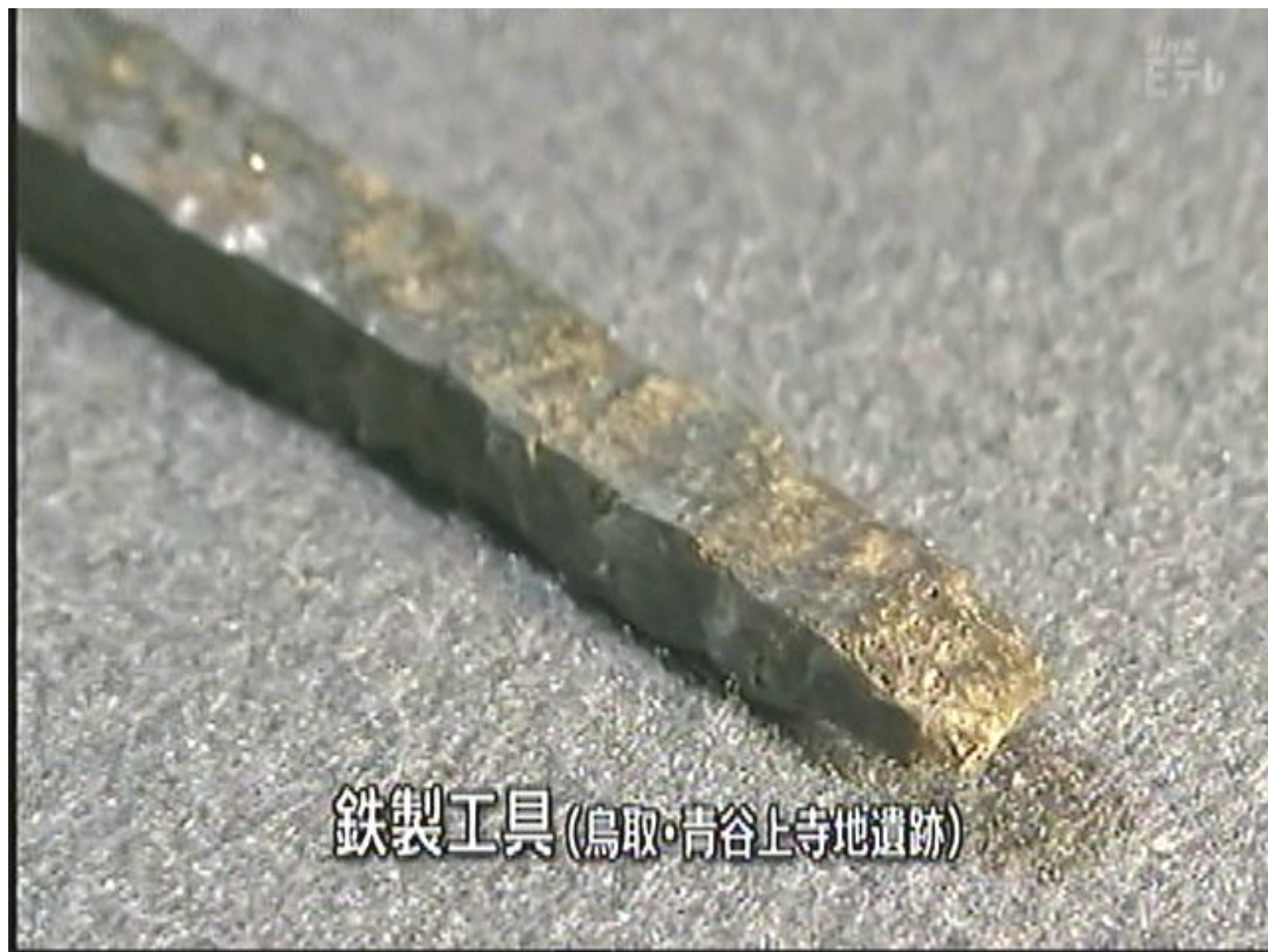
銅矛^{ほこ}



銅戈^か







鉄製工具(鳥取・青谷上寺地遺跡)

銅剣



銅矛^{ほこ}



銅戈^か







外型









NNS
ETV

鑄造家
小泉武寛さん







型持ち









A面



B面



NHK
ETV

A面

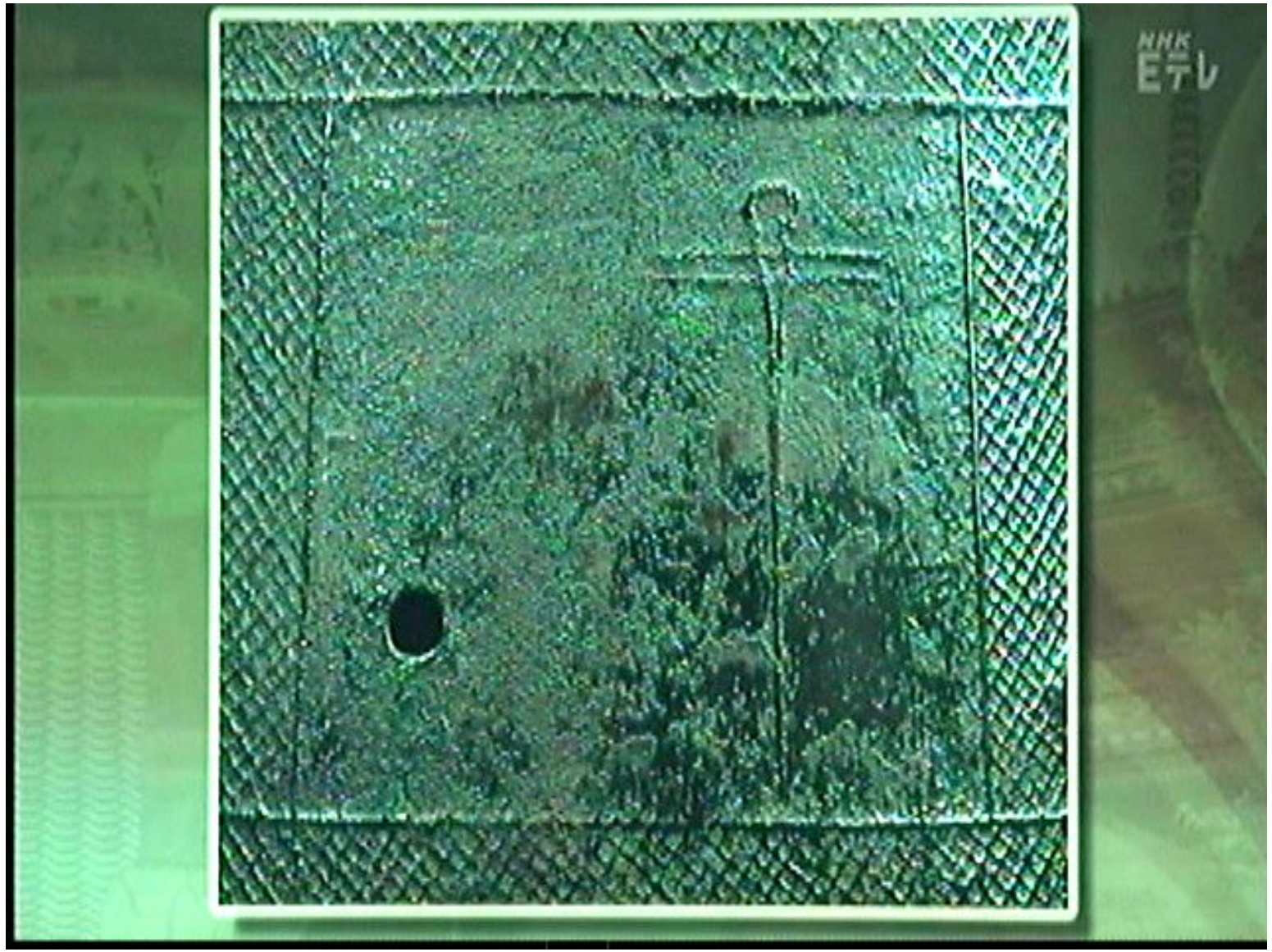


B面



NHK
ETV





NHK
ETV

NHK
Eテレ



トンボ

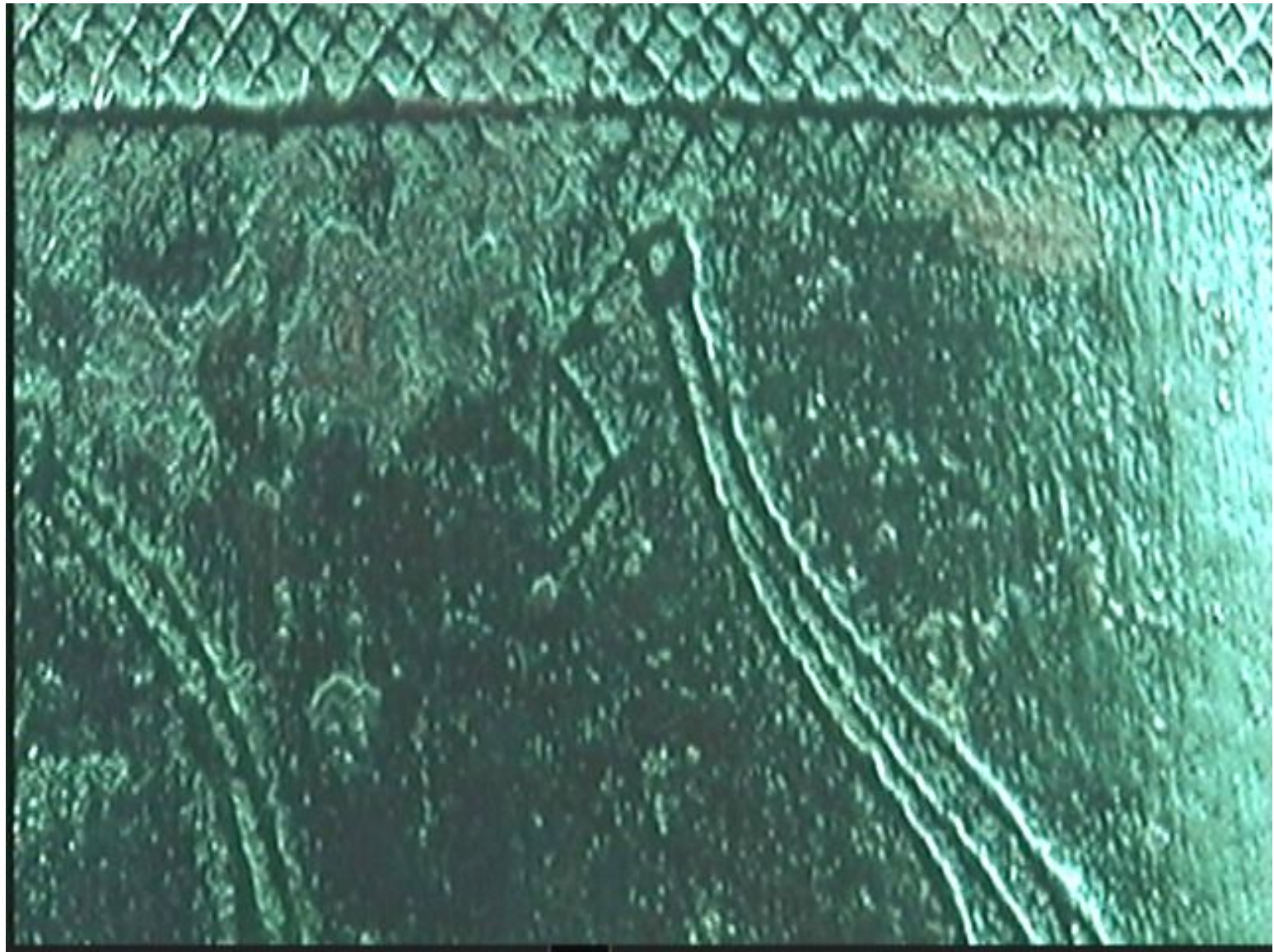




鹿を射る人



NHK
ETV





高床倉庫

NHK
ETV



NHK
Eテレ



脱穀する人



加茂岩倉遺跡(島根県)











石器
時代

青銅器
時代

鉄器
時代





板付遺跡(福岡県)













環濠







登呂遺跡(静岡県)





高床倉庫



吉野ヶ里遺跡(佐賀県)



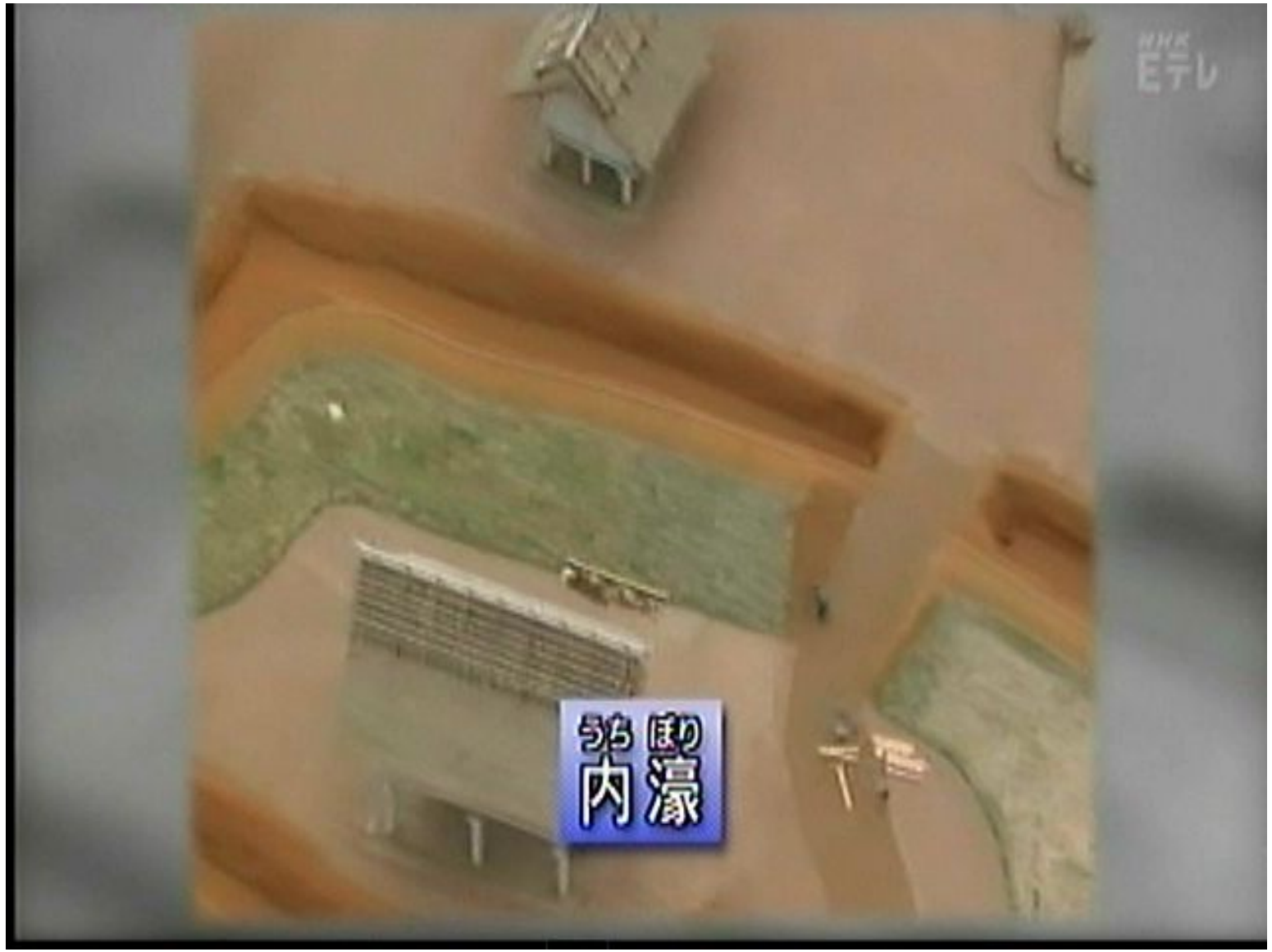
吉野ヶ里遺跡(佐賀県)





NHK
Eテレ

御家
内



NHK
Eテレ

御家
内





北内郭



北内郭





MXX
ETV

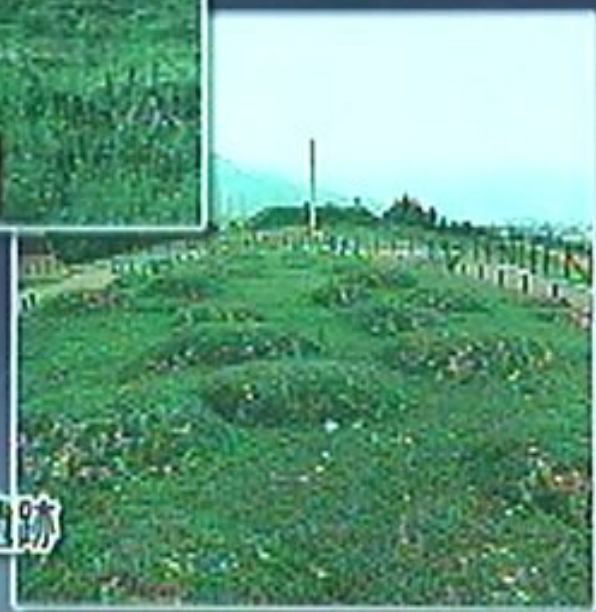
NHK
Eテレ

拠点集落





墳丘墓



佐賀県・吉野分里遺跡



墳丘墓

吉野ヶ里遺跡



飯塚市歴史資料館 蔵

NHK
Eテレ



立岩遺跡 (福岡県)



壙棺
かめ
かん

立岩遺跡 (福岡県)



縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～

① 石器から金属器へ

② ムラと富

③ こうほん 広汎な交流と地域性
弥生文化、続縄文文化、南島の貝塚文化



続縄文文化



フゴッペ洞窟(北海道)











貝塚文化

NHK
Eテレ



貝塚文化



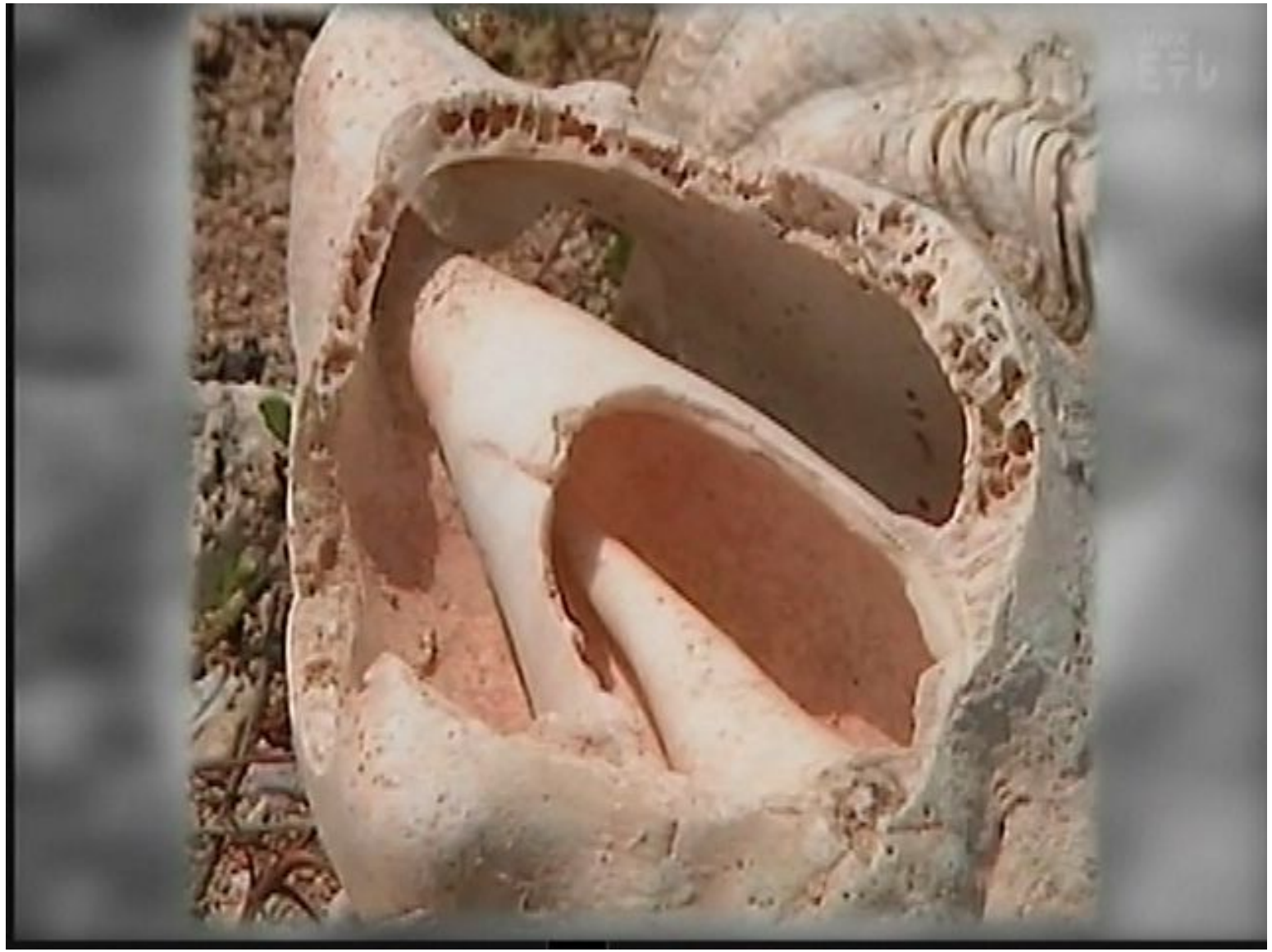
ゴホウラガイ





くしぼる
具志原貝塚(沖縄県)











イモガイ製貝輪



163~168 縄文時代前半(前2~前1世紀)

貝製品

北海道伊達市有珠モシリ遺跡
文化庁・伊達市教育委員会



イモガイ製貝輪



後漢書



以上用決吉
不食肉不近婦人名曰持
利則雇以財物如病疾遭
謹便共殺之建武中元二
朝賀使人自稱大夫倭國
武賜以印綬安帝永初
等獻生口百六十人願

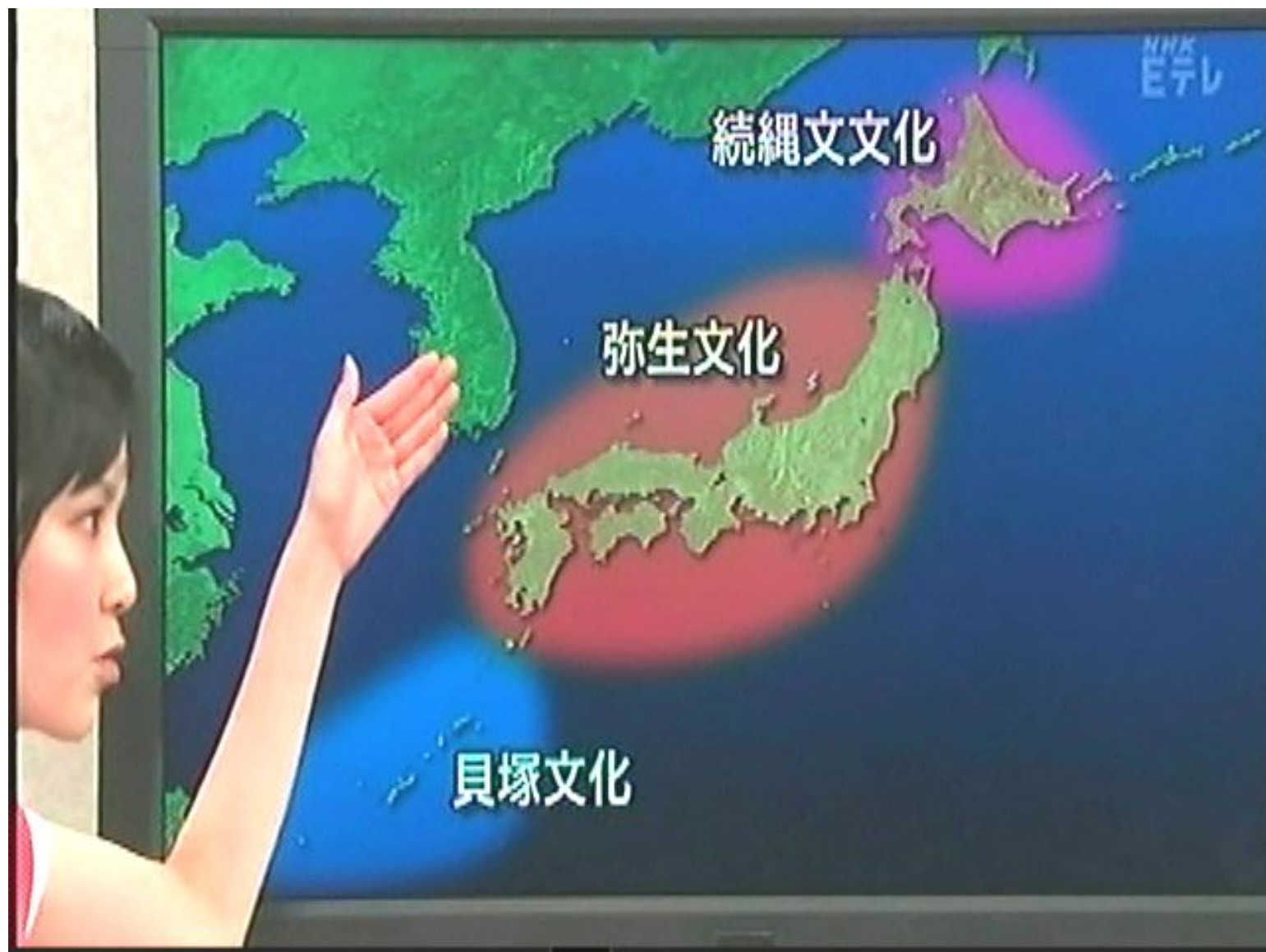


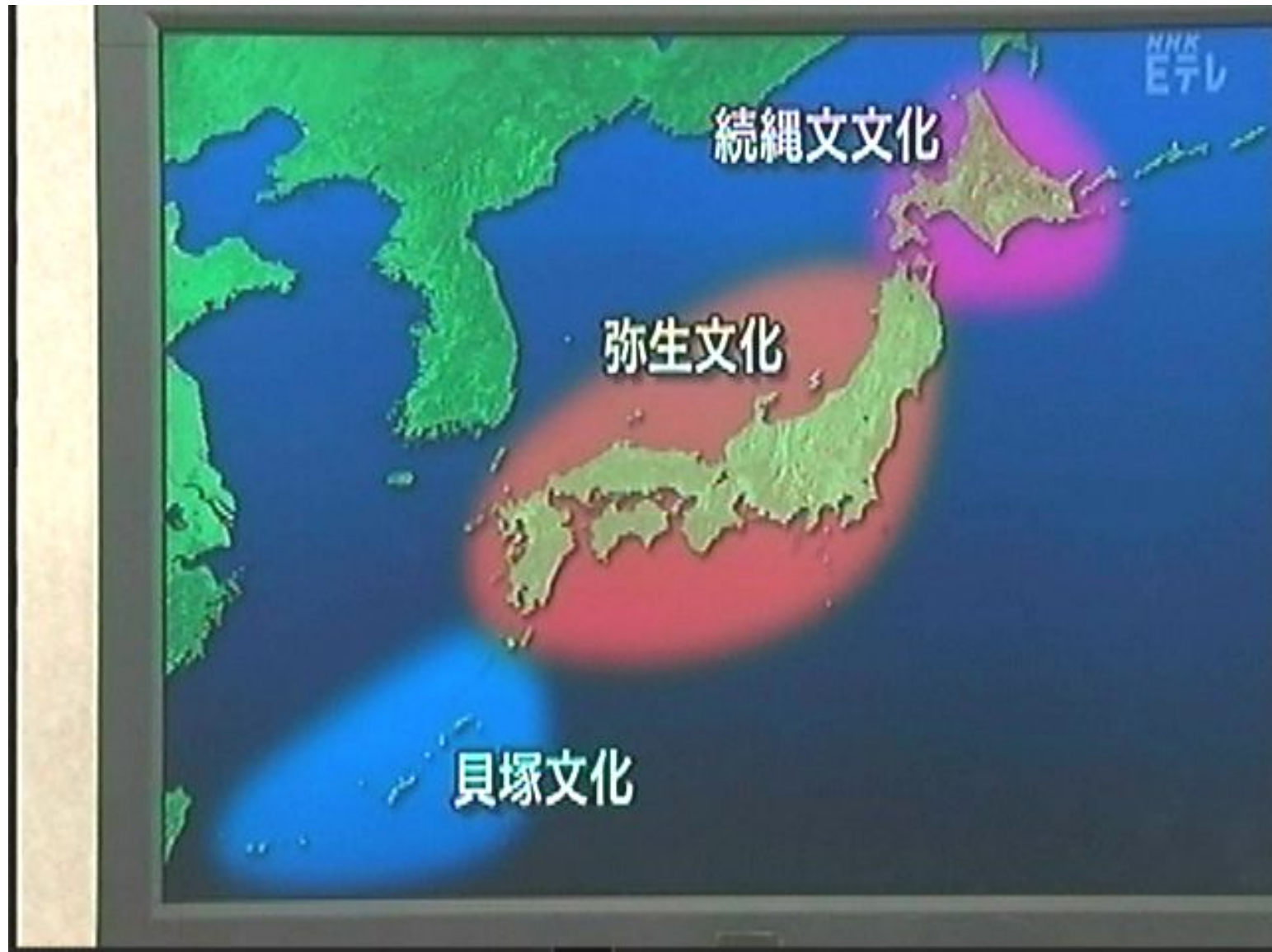


「漢委奴國王」金印
(福岡市博物館 蔵)



「漢委奴國王」金印
(福岡市博物館 蔵)





後漢書

東夷伝

建武中元二年（57年）、

倭奴国、貢を奉じて朝賀す。

使人自ら大夫と称す。

倭国の極南界なり。

光武賜うに印綬を以てす。

ごかんじよ
後漢書

どういでん
東夷伝

けんぢちゆうげん
建武中元二年（57年）、

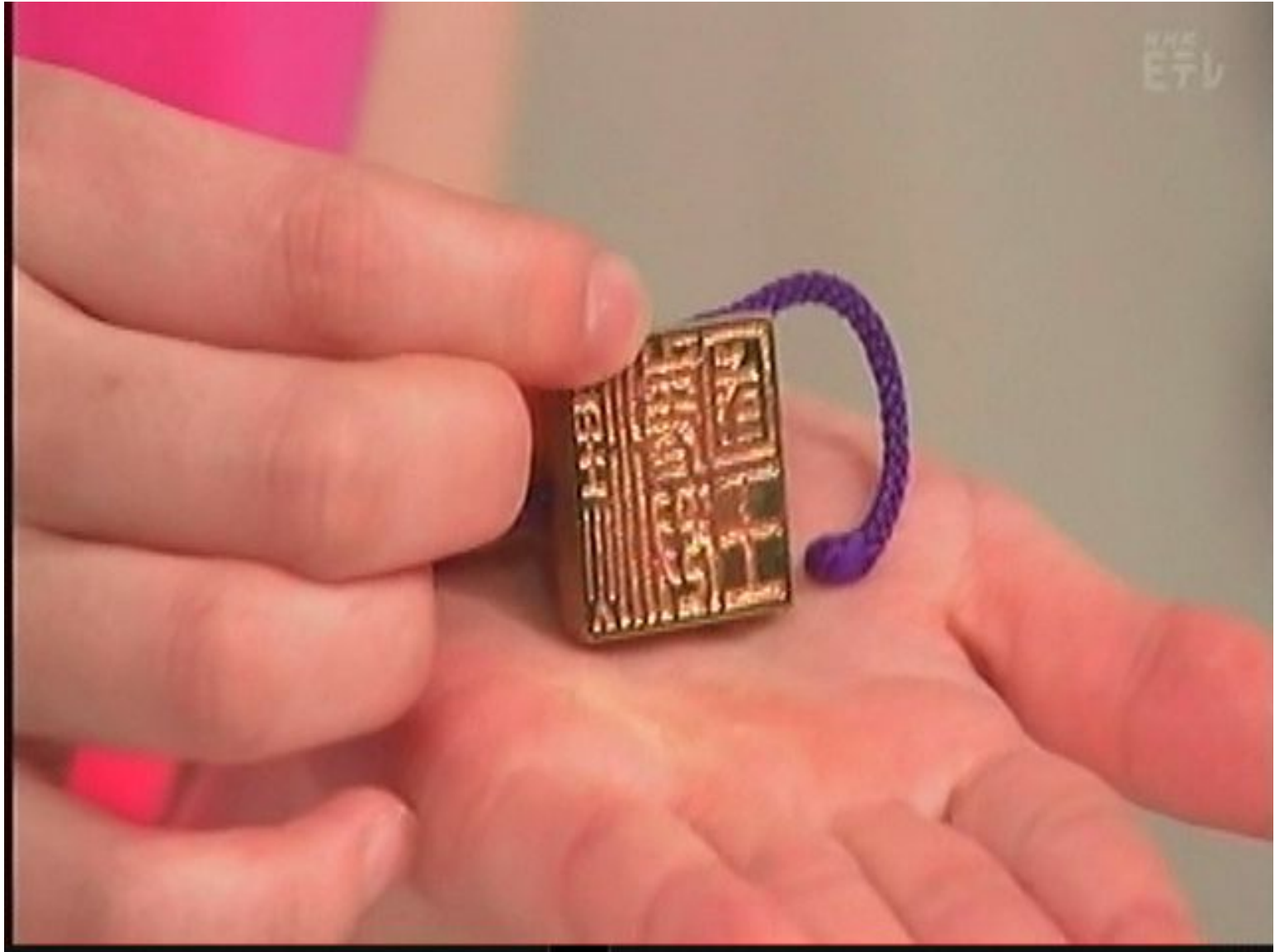
なこく
倭奴国、貢を奉じて朝賀す。

たいふ
使人自ら大夫と称す。

倭国の極南界なり。

こうふ
光武賜うに印綬を以てす。





縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～


① 石器から金属器へ

② ムラと富

③ ^{こうほん}広汎な交流と地域性
弥生文化、続縄文文化、南島の貝塚文化



谷口 榮



高校講座日本史ホームページ

<http://www.nhk.or.jp/kokokoza/>





縄文から弥生へ
～稲作の広がりと金属器～